

「三段壁」 国名勝に文化審答申

白浜と一体に喜び

国の文化審議会が16日、白浜町の名所「三段壁」を

国の名勝に指定するよう文科相に答申した。すでに名勝に指定されている白浜の「円月島(高嶋)及び千畳敷」に追加される形となる。かつて「新婚旅行の名所」としてにぎわい、今も和歌山を代表する観光地・白浜が一体的に指定されることで、関係者からは喜びの声が上がっている。

光台院「庭園」は登録記念物

三段壁は、砂岩から成る 断崖絶壁が連なり、眼下に海岸段丘。高さ40〜50メートル 太平洋が広がる景勝地。地



眼下に海が広がる景勝地「三段壁」=県提供

下には洞窟もあり、内部を見学できる。

県文化遺産課によると、江戸時代の文人画家、祇園南海や桑山玉洲らが名所の一つとして描いた作品にも登場する。答申では「断崖絶壁にある洞窟も含め、江戸時代以来の名所として、白浜の優れた風致景観として重要」と評価された。

海に沈む夕日が美しい場所でもあり、多くの恋人や夫婦が訪れる。昨年4月には、プロポーズにふさわしい「恋人の聖地」として、NPO法人「地域活性化支援センター」(静岡市)から認定を受けた。

答申について、白浜町の担当者は「(三段壁を)これからも大切に守り、さらなる観光振興を進めていきたい」と話す。

□

今回は、昭和の名作庭家、故重森三玲が手がけた庭園「光台院書院庭園」(高野町)を登録記念物とすることも答申された。

同庭園は、1963(昭和38)年、高野町の「光台

院」につくられた。約400平方メートルで、中央に池泉を配置し、背後に設けられた築山群は、高野山を囲む峰々を模している。

三玲は岡山県出身だが、高野町内には三玲がつくった庭園が数多く残されている。

三玲の孫で、重森三玲庭園美術館(京都市左京区)の館長、重森三明氏(51)によると、三玲は全国各地に庭園をつくったが、景観の維持管理の大変さから、取り壊されたり改変されたりしたものも珍しくな

いという。「その中で、高野山では三玲の庭園をよく守ってきて下さった。おかげで、今まで残っているのです」

「光台院」によると、庭は前日までの電話予約で見学できる。(土井恵里奈)